

牛久市社会教育委員会議事概要		日時	令和5年2月9日（木曜日）
件名	令和4年度第3回社会教育委員会議	場所 時間	中央生涯学習センター 中講座室 10:00～11:45
作成年月日	令和5年2月24日（金曜日）	作成者	生涯学習課：横瀬 幸子
出席者	<p>(出席委員) 武田直樹、種子田孝子、高野しのぶ、唯根勉、前田栄子、佐々江健治、大高稔子、木村武志 (牛久市) 教育委員会次長兼スポーツ推進課長 高橋頼輝、教育企画課長補佐 山口功、 保健福祉部次長兼健康づくり推進課長 渡辺恭子、医療年金課長 石野尚生、社会福祉課長 石塚悟 (事務局) 生涯学習課長 斎藤正浩、主任 横瀬幸子、会計年度任用職員 秋山尚子、小松澤美香、 社会教育指導員 岡野あつ子 (傍聴者) なし</p> <p style="text-align: right;">(順不同・敬称略)</p>		
議事内容	1) 第1期牛久市教育振興基本計画(修正版)取り組み状況及び進捗状況について(P64～P69内の各課所管事業)		
会 議 内 容 等			
1. 開会 2. 挨拶（議長） 3. 議事 1) 第1期牛久市教育振興基本計画(修正版)取り組み状況及び進捗状況について(P64～P69内の各課所管事業) 上記計画内の基本方針3. 【生涯スポーツの推進】の各施策における、担当各課の所管事業の取り組み状況及び進捗状況について、各課長等より資料に基づいて説明。			
【質疑等】			
委員	地域部活動を進めるにあたり大変だと思います。小学生は少年団で活動しているが、そこから地域部活動へつながる流れはあるのかなど、保護者の方々も不安に感じているので、情報共有はどのようにしていかれるのでしょうか。 障害者スポーツのノウハウや人材育成の面で課題があるということですが、今後の具体的方法があればお聞かせください。 コロナ後の様々な変化があると思うが、今後、学校や地域でもどのように変化して行っていくかということが問題となる。情報共有ができると良いと思います。		
担当課長	地域部活動について、令和7年度までに休日部活動を地域へ完全移行としていましたが、現在はR5～R7年度の改革推進期間を経て可能な限り早期着手を目指すとしています。将来的には、平日の部活動も地域へ移行します。これは、教職員の働き方改革において、学校部活動は教員が必ずしも携わらなければならない業務ではないと位置づけられていることから、ゆくゆくは学校部活動がなくなる方向が示されていると認識しています。ただし、指導者等の問題がクリアにならない以上は、現状の学校部活動と並行して地域での活動を始めつつ、学校との連携を図り進めていかなければならない状況です。 市では令和4年の秋から、地域移行のモデル事業として野球・サッカー・女子バレーの3種目で、休日に外部指導者による指導を行っています。当面は、学校部活動と並行しながら、地域のスポーツ団体等に協力してもらい中学生を休日受け入れてもらう体制を作っていく必要があります。地域で活動する場の整備が求められていますので、今後は地域のスポーツ団体や文化活動団体の協力が必要になってきます。 少年団は中学校の部活動の関係もあり6年生で卒団するのが大方ですが、20歳まで受け入れることができるとなっていますので、受け入れが可能になれば、中学生の活動の場が保たれると考えています。受け入れ協力について丁寧をお願いする必要があります。		

担当課長	人材育成は、プロスポーツ団体と協定を結んでおり、内容としては教育面や指導者育成の部分も入っていますので、その団体と連携しながら来年度以降少しずつ出来ればと考えています。 ウィズコロナということで、団体等とも今後の活動について役員の方々と会議を行っています。児童生徒にも参加してもらいたいということが出てきた場合、情報の共有は大事なことと思いますのでしっかり行っていききたいと考えています。
委員	スポーツというと勝つことが目的になっているように感じてしまう。もっともっと楽しめるスポーツに移行できるプログラムを考えてはいかがか。例えば、ウォーキングなど家族全員で参加できるような、優劣をつけることはしないで楽しめるスポーツを市がバックアップしてくれると良いと思う。 民間の方が指導されることは良いとは思う。小中学校時代に参加したスポーツが将来の自分の好きなスポーツになるような方策を考えていただきたい。勝つためばかりの方策だけではなく、皆が体を動かすのを楽しめるスポーツであってほしい。
担当課長	生涯スポーツを進めるということで事業を行っていますので、勝つことだけに拘らずに体を動かしてスポーツを楽しむことをやっていかなければと考えています。その一つとして、コロナ前は地区の交流会でもウォーキングの実施や、市でもウォーキング大会を行っていました。勝つことや競技力を伸ばすだけに特化するような進め方ではなく、楽しく誰もが参加できることをしっかりと考えてまいります。 中学生という多感な生徒を指導していくということもあり、部活動に関して県からガイドラインが示されています。当然のことながら外部指導者の方もガイドラインのとおりに行っていただく必要があります。外部指導者にもきちんと研修などを取り入れたうえで指導に当たってもらいます。間違っても体罰につながる、やらかなきゃ良かったと思わせることが無いようにしていくことはきちんと対応していきたいです。
委員	ここ10年ほどの間に指導方法が変わってきており、指導者によるスパルタ的な指導が減ってきている。今、不足しているのはスポーツ協会やスポーツ少年団などの横の連携が少し取れていないことである。それぞれは一生懸命にやっているのだから、学校、スポーツ協会やスポーツ少年団、教育委員会との連携があっても良いと思います。 行政のほうで健康に対していろいろな部署が取り組んでいると思うが、連携は取れているのでしょうか。同じ健康を目指すなら一本の柱があってもいいと思う。それに対してどのように取り組むのかという話し合いがあり、それが展開されていくとますます良くなると思う。具体的な進め方に課題が多いと思う。
委員	子どもたちがスポーツに参加する上で用具を揃える必要があり、各少年団では子どもたちの負担にならないよう工夫をしているところもあると思います。スポーツ少年団の参加人数はどうなっていますか。少子化の影響もあると思いますが、スポーツに参加する上で家庭環境や経済的な理由で気軽に参加できないという話を聞いたことがあります。他市町村では、そのような家庭に対して補助金を交付しているところがありますが、牛久市では補助金とかは考えていませんか。
担当課長	スポーツ少年団の団体数は、令和4年度は31団体。これは令和元年度と同じです。団員数は令和元年度が898人、令和4年度は830人と約70人減少しています。少子化もあると思いますが、コロナで新たな加入者が減ったと感じています。減った理由には、委員が仰ったように経済的な理由もあると考えられます。しかし、現状牛久市では、用具への補助をするという事は行っておりません。今後につきましては、近隣の市町村へも調査して、牛久市にマッチして行っていけるかどうかということ課題として考えていききたいと思っています。
委員	パラスポーツ選手の國枝氏は柏市内のテニスクラブで練習をしているなど、パラスポーツを行っている所は近隣にもあります。障がい者がスポーツに接することができる環境を牛久市単体で取り組むのは大変だと思いますが、近隣では障がい者スポーツに取り組んでいるところがあるので、牛久市にも取り組んでいる姿勢がほしいです。障がい者でもスポーツを楽しめるという環境を作っていただけたらと思います。
担当課長	2019年の茨城国体では、ブラインドテニスを運動公園で行いました。出来る環境のスポーツもあるし、ノウハウがなくて協力を得ないと出来ないスポーツもあります。しかしながら、障がい者の方を置いてきぼりにすることなく、皆さんと一緒にできる環境をしっかりと考えていかなければと思っています。
委員	介護予防体操の普及員は、牛久市のかっぱ体操普及員と県のシルバーリハビリ指導者で、重複しているということはあるでしょうか。

担当課長	牛久かつぱつ体操は市オリジナルでその認定や普及員の養成講座もすべて牛久市で行っています。 3級シルバーリハビリ体操の指導師会は茨城県が主体になります。市では会場提供などをしており、指導者は1級指導者が当たっています。 体操自体も質が違い、かつぱつ体操はラジオ体操的なもので、シルバーリハビリは簡単にできる体操で、数百種類あるのでその方の体力に応じて適正な体操を指導するものです。
委員	参加人数は年々増えていますか。
担当課長	参加人数は増えていない状況です。教室は行政区でそれぞれ行って参加状況の報告を受けています。コロナの影響もあり、密を避ける・人との接触を避けるという点で、参加者は少ないです。
委員	むしろ健康づくりなので、牛久市全体で参加している人が増えているのか横ばいなのかを教えてください。
担当課長	かつぱつ体操は、各行政区から指導者を推薦していただき、その方に地区で指導してもらっています。活発に行っている地区や1か月に1回程度の地区もありますので、地区ごとの特性に合わせて参加者の少ないところの健康づくりをどのようにしていくかというのが課題となります。
委員	地区の公園で体操をしているのを見かけますが、私自身はかつぱつ体操やシルバーリハビリ体操を知らないです。子ども世代や親世代にも浸透するような活動をしてもらえたらもっと広がると思います。例えば、夏休みに限らず朝に公園に集まって体操をする際に、かつぱつ体操を活用してもらえたら私たちも参加できると思います。
担当課長	始まって20年が経つので大分浸透してきたと思いますが、若い世代にも関心を持っていただくともっと活性化していけるので、是非そうしていきたいと思います。以前、3地区の体育祭でかつぱつ体操を紹介する機会を設けていただいた事があったので、また工夫していきたいと思います。 市ホームページにかつぱつ体操の動画がありますので、是非ご覧いただきたいと思います。
委員	今、ボルダリングやスケートボードといったスポーツがオリンピック種目になってきています。龍ヶ崎市ではボルダリングの選手がオリンピックに出場しましたが、オリンピックスポーツと言われる種目に対する練習会場を将来的に整備してもらえると良いと思いますがいかがでしょうか。
担当課長	龍ヶ崎市では、たつのごアリーナ内にボルダリング会場がありますが、牛久市にはそのような会場はありません。来年のパリオリンピックでは、ブレイクダンスがオリンピック種目になりました。学校体育でもダンスが必修化され、そこからプロにつながることもあると思いますので、スポーツ行政としても教室の開催や発表の場の提供のようなタイムリーなものを的確にとらえていく必要があると考えています。
委員	ボルダリングやスケートボードの練習会場を作るのは不可能なんでしょうか。
担当課長	スポーツ推進計画の中で、市民ニーズに合わせたスポーツ施設の充実という点もあるので、運動公園やその他の施設であっても市民ニーズを聞きながら検討していくことはできると思います。しかしながら、場所や時期等についての具体的な回答はできませんが、検討しなければならない点と考えています。
委員	つくば市でも廃校にBMXのコースを作ったり、笠間でもスケートボードのパークを作ったりと、地域活性化も含めて作られてきている気がしますので、従来とは違った視点・見方が必要だと感じました
委員	5,6年生の保護者が中学校の部活動に対して心配で、サッカーを続けるために今からクラブチームを探しているという話を聞いており、この先どのようにつながるのか保護者の中に不安があります。プロを目指している訳ではないが、中間がなくなってしまうような気がしています。 先ほども意見がありましたが、横のつながりをもっと浸透させてほしいと思います。話し合いをしたいと思う方はいらっしゃると思いますので。 指導者の育成という点で、保護者の中でも指導をしてくれる方がいるので、指導者限定ではなく保護者にも講習をしていただけると参加者も増えることになると思いますのでお願いします。
担当課長	地域部活動は、先生が携わらなくてもよい状況を作るのであって、子どもたちの活動の場を無くそうとしている訳ではありません。学校の中で活動自体が一切無くなるということは、現状ないと認識しています。あくまで学校の部活動ではなく、地域の活動を放課後にやりますという宣言がいずれは出てくるかもしれませんが、子どもたちの活動が全くなってしまうということではないと捉えています。 ただし、これからの部活動は今までのとは少し形態が変わる部分があると思います。例えば、中学総体に向けてといった活動ではなく、これまで経験したことのない子どもたちも一緒に活動するなど、向かう方向性が変わると思いますが、活動の場としては残っていくと思っています。ただし、保護者が強いチームで続けたいと望んでいる場合は、やはり選択になってしまうと感じています。

<p>横のつながりにつきましては、現状、スポーツ協会、スポーツ少年団はそれぞれ独立して活動をしてきており、今まで接点を持てなかった部分がありますので、今後は接点を持っていきたいと考えています。</p> <p>指導者の部分については、やはり子どもが成長している段階でのスポーツのかかわり方について、指導者だけでなく保護者にも聞いていただきたいというところもあると思いますので、指導者向けに捉われずに考えていきたいと思ひます。</p>
